

外務大臣  
機密  
第 36 號  
12. 1. 19

管區署 第三課  
大正十二年一月十七日

海軍大臣

馬公要港司令官  
大正十二年一月十八日  
綴込名 印 光 山 龍

亞細亞局  
鷺嶽鼻望樓及海口碇泊、木曾ヨリ、報告ニ  
依リ昨夜來日露國軍艦旗ヲ掲ケタル約一千  
餘隻、商船四隻鷺嶽鼻、西方七哩ニ假泊中  
候、今朝日露國軍艦旗ヲ掲揚セル砲艦一隻  
馬公港外ニ避難假泊セル正午南方ニ向ケ  
出港セリ

午後四時十分測天島發  
九時。分海軍司令官

正徳七

軍部

大正十二年一月十九日

午前十一時十分  
午後三時十分  
海軍司令部  
臺北在勤海軍司令部

海軍局長

海軍次官

軍令部長



左



高雄州知事報告

管内恆春ニ避難中ノ露國白軍軍艦一行ト  
思ハル軍艦一隻高雄ニ投錨シ艦長海軍大尉  
以下二十三名便乗者男七女四上陸シ救助方  
申出タリ便乗者ハ上陸ヲ希望シ尚同行者中  
病人一名ヲ入院加療セシメタキ旨希望シ居ルモ  
彼等ハ金四總額僅ニ二百弗ヲ有スルニ過キス  
其他事情許シ難キモアルヲ以テ當州ハ彼等  
上陸ヲ許ササル可針ナリ

此彼等ノ語ル所依リハ布袋嘴沖合ニテ僚  
艦一隻沈没シ男二十二女一溺死シタリト

門類  
項目  
一

電信課長

大臣

次官

亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
人事  
會計  
文書  
平和條約

|     |  |
|-----|--|
| 件名  |  |
| 綴込名 |  |

上野 基北 大正十二年一月二十日 台二二〇  
本署 台五四五

田中 外務次官 総務長官代理  
大正十三年 壹月廿五日 記録係 接受

本島南航ニ現ハレシ露五軍艦ハ貴電  
ノ通「スル」カ 電下艦船ノ一部ニ付高雄州  
知事ヨリ應急準備整ヒ次第速ニ出發スル  
達「ト」ルニ交 ツロソバート「ニ」乗他「一〇〇」ハ  
カル「(一〇〇)」バツクリヤ「(一〇〇)」マケニト「(九〇)」ノ  
四隻ハ十九日午九時南洋方面ニ向ケ出發  
ス。右現在高雄ニ在ル「ハ」ガワリ「エ」ヤ「ガ」ギョウ「船」  
(乗他「三九」)「バ」リス「ト」ローム「船」(乗他「四

ニシテ石炭補給ノ必要アリ 船体ノ應急修理  
スルニ至「二」十一日「ニ」ハ「右」者「カ」シ「メ」得「ル」見「込」。

大 臣 官 亞 細 亞 歐 洲 通 商 條 約 情 報 人 事 計 畫 會 文 書 平 和 條 約

第四〇七

電 信 案

電信課長



(内 號 用 紙)

暗 號 發 電 大 正 十 二 年 一 月 廿 二 日 午 前 五 時 四 十 分 送 電 番 號 四 三 五 米 天 經 山 長 泰 經 山

主 管 歐 米 局 長 任 主 ( 起 草 大 正 十 二 年 一 月 廿 二 日 ) 歐 米 局 課 長 印 山

件 名 名 込 綴

受 信 人 名 浦 潮 村 總 領 事 發 信 人 名 内 田 大 臣

第 一 九 號

朝 鮮 總 督 府 未 電 ニ ヨ レ ハ 元 山 滯 留 難 民 中 浦 潮 歸 還 希 望 者 三 十 二 名 ( 赤 派 ノ 疑 ア ル モ ノ ) ア リ タル フ イ テ 二 十 日 午 後 五 時 元 山 汽 船 清 津 丸 ニ テ 送 還 セ ン 事 有 リ

電 信 案

外 務 省

門  
項  
電話課長

大臣  
次官 **あ**

亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
人事  
會計  
文書  
平和條約

**あ**

|     |  |
|-----|--|
| 件名  |  |
| 綴込名 |  |

八九四  
平  
京城  
大正十二年一月二十日  
如右

内田外務大臣 朝鮮總督府政務總監  
元山歸留ノ避難民中、浦汐歸還希望者三十二名  
(其派ノ疑アルモノ)アリタルヲ以テ二十一日  
午後五時元山發清津丸ニテ送還セリ。

大正十二年壹月廿五日 記録係接受

機密  
受第 0286 號  
12.1.22

外秘收第二七。六號  
大正十二年一月十九日

歐戰 第二課 五

送名 藤井 守吉 山内 貞

神奈川縣知事 安河内 麻吉

大正十二年七月貳拾日 肥後縣 藤井 守吉

第四課

歐米局

第二課

内務大臣 水野 錬太郎 殿

外務大臣 伯爵 内田 康哉 殿

兵庫 福井 長崎 各縣知事 殿

朝鮮 開東 各警務局長 殿

元山 於 露 國 難 民 救 濟 二 千 三 百 件

横濱市 山手町 三三四 番地

英國 宣 教 師

Estace Mardant Strong

右者 客 月 三 日 附 本 報 既 報 通 元 山 於 露 國 難 民 救 濟 一 用 務 帶 全 日 朝 鮮 向 出 發 多 山 毛 知 本 月 十 八 日 帰 濱 市 右 及 申 ( 通 ) 報 也

機密  
受第 0302 號  
12. 1. 22

高知 第一課 五  
高知 第一課 五

大正十二年一月十九日 大正十二年七月貳拾日記録係書

北海道廳長官 宮尾舜治

内務大臣 水野錬太郎殿

外務大臣 白根内田康成殿

各廳、府、縣長官 殿

朝鮮總督府 警務局長 殿

露國避難民救濟慰問金品募集ニ関スル件

客月十日付高知別三五六一ノヲ以テ首題ノ件京都府知事(中貝官)ヨリ通報有之矣如管下函館市日本赤

十字社函館委員部ニ対シ客月十日日本赤十字社朝鮮本部名ヲ以テ露國避難民救濟慰問ノ勸誘ナラテ依頼越シタル事寅有之談委員部ニ於テハ一般會員ニ其ノ趣旨ヲ傳テ達シ勸誘セシモ財界不況ノ際ナル爲之ニ應ズル者無ク状況ニ有之矣赤十字報云也

REEL No. 1-1307

0320

外務大臣

外務大臣

機密  
第 50 號  
12. 1. 22

亞細亞局

警備課 第一課

大正十二年一月十九日

臺北在勤海軍武官

海軍次官

軍令部長

綴込名

高雄州敬言務部長兼總督府航電日 記録係

露國白軍ニ属スルトロール船ハリス(四百噸)ハ本日

午前十時五十分支那牛莊ヨリ高雄入港セリ

入港ノ目的ハ炭水補給船底修理ノ為乗組員

船長海軍少尉エルマナノハイツチ下士官八水

兵一四(二五名乗組員ノ行動ハ嚴重注意中

尚本船ハ一月十六日台南州布袋嘴ニ於テ坐

礁沈没シタルアジアカツクト姉妹船ナリト云フ



外務大臣

機密  
受第 47 號  
12. 1. P2

亞細亞局

亞細亞局 第一課  
大正十二年一月十九日 午後五時十五分測天島發  
馬公要港部司令官

海軍大臣

綴込名

露艦監視、為派遣セル木曾艦長報告ニ依リ、  
一、鷲鷹、鼻沖滯泊中、露艦ハ、マクニット、  
「バイカル」バタヤ、ゼリベンルニシテ各艦乗員  
約七十名外ニ旧露國海軍人、其家族約  
百名、便乗者アリ、一週間前上海發、馬尼刺  
向、途中風波、為避泊シタルモノナリ  
各艦共ニ炭水糧食残リ少ク困却ノ模様  
二十九日午前露國軍艦三隻ハ、バイカルヨリ水  
積取次、茅岬發、南下、見込

三、バイカルハ、他艦ニ水ヲ移シ、ル上、炭水糧食、  
補充、為單独高雄ニ向、望

駐歐齋 第一課

大正十二年一月十九日

午後三時十分 台北發  
臺北在勤海軍武官

海軍次官  
軍令部長

綴込名 白土 他

外務大臣

機密 第 93 號  
12. 1. 22

高雄州知事報告

大正十二年七月八日 記録係接受

亞細亞

2本

管内返春ニ避難中ノ露國自軍軍艦ノ一行ト  
思ハル軍艦一隻高雄ニ投錨シ艦長海軍大尉  
以下二十三名便乗者男七女四上陸シ救助方  
申出タリ便乗者ハ上陸ヲ希望シ尚同行者中ノ  
病人一名ヲ入院加療セシメトキ旨希望シ居ルモ  
彼等ハ金山總額僅ニ二百弗ヲ有スルニ過キス  
其他事情許シ難キモアルヲ以テ當州ハ彼等  
上陸ヲ許サザレド針ナリ

尚彼等ノ語ル所ニ依リハ布袋嘴沖合ニテ僚  
艦一隻沈没シ男二十二女一溺死シタリト

外務大臣

機密  
受第 46 號  
12.1.22

亞細亞局

木曾艦長ノ報告ニ依ル露艦四隻ハ予定  
變更シ十九日午後一時半發艦鼻沖發  
南西ニ去リ

註四〇

海軍大臣

綴込名  
白倉川

管區署 第一課  
大正十二年一月十九日午後四時三十分測天島發  
馬公要港部司令官

外務大臣

機密  
受第 48 號  
12.1.22

亞細亞局

高雄州軍總督府宛電  
前九時露艦ツロリバートル  
マグネツトハ南洋方面へバイカルハ高雄ニ向  
ケテ

海軍次官  
軍令部次長

綴込名  
白倉川

註四〇  
管區署 第一課  
大正十二年一月十九日午後七時  
台北在動海軍武官  
台北發  
海軍局著

機密  
受第 1.22

亞細亞局

駐歐艦隊 第二課

陸同文

電報

大正十一年一月二十日

參謀次長宛

陸軍參謀長

臺灣四号

三月廿七日 記

旧露国軍艦旗ヲ掲グタルアノナレトハ、ハイオニア外ニ  
一隻(日裏ニ上海ヲ發シタルモノ)ハ十五、日、臺灣南端  
臺灣鼻燈臺附近ニ碇泊セリカ行先其他不明ナリ、  
中一隻ト思ハシキモノハ十八日高雄港ニ入港ニ救助  
方ヲ申出テ便乗者男七、女四、ハ上陸ヲ希望シ且ツ病  
者一名ノ入院加療ヲ希望シアルモ州官憲ハ上陸ヲ  
許可セザル方針ナレカ如シ又彼等ノ言ニ依レハ布  
袋嘴(臺南西北海岸)沖合ニテ僚艦一隻沈没シ男

二十二名女一溺死セリト



機密  
第17  
12.1.22

警務課  
第一課

綴込名  
白尾山

陸同文  
次長宛  
電報

第五電

第四号  
ヲ報告ノ露艦ハ本日南方ニ向ヒ出港

セリ

亞細亞局

7  
報

在  
台灣  
電  
參  
謀  
長

大正十二年一月二十日

一月十九日午後一時五分發  
一月十九日午後十時五分發

三十五年七月八日 記録係 接受

機密  
受第 〇 號  
12. 1. 22

亞細亞局  
移民課

警務課 第九課

(辛號用紙)

機密 九 號

渡込名 白土 雄

大正十二年一月十二日

在浦潮新橋 大正十二年七月八日 記録係 接受

要旨付了

在浦潮新橋 總領事 松村貞雄

外務大臣伯爵内田康哉 殿

在雄基露國檢疫船引取願書ニ関スル件

本件ニ関シテ、<sup>露國</sup>往電第二号ヲ以テ本年一月廿日当地革  
命委員会保健部ヨリ汽船「インシネル」號依遣ノ旨ヲ  
申進置候処 其後九日ニ至リ当地ニ帰還セル右汽船乗組ノ  
代表者<sup>カ</sup>、<sup>カ</sup>「インシネル」ノ語ニ依テ雄基警察署トノ交渉  
願書左ノ如ク有之候

在浦壘日本總領事館

引取船「インシネル」早ニ本月七日前十時雄基ニ到着シタル処  
同日約午前十時警察署員ノ末船ヲ受ケ 尚午右時頃ニ  
至リ医員稅関吏ノ末船ヲ受ケタル付 代表者<sup>カ</sup>、日本語ヲ解ス  
ル依リ末意<sup>カ</sup>述ベ署長ニ面會ヲ求メタルガ、<sup>カ</sup>「カ」<sup>カ</sup>有之候  
故ニ以テ同日<sup>カ</sup>遂ニ上陸ヲ許可セシム 翌日午前十時ニ至リ漸ク  
小舟ヲ差向ケラレ署長ニ面談スル得タリトノ事<sup>カ</sup>、<sup>カ</sup>雄基  
警察署ノ調書ニ依テ 避難白軍ノ為メ放棄セラレタル檢疫  
船「ストレモウ」ホフ「早」ニ至滿江々口漂流中<sup>カ</sup>、<sup>カ</sup>「カ」<sup>カ</sup>為メ  
發見セラレシモノニシテ之ガ引取ノ為メニ 保管料年額二百圓  
ノイナラズ 尚福志丸ノ淺船料 百五十圓及水難救助法第  
一ノ條ニ依ル船作價額一割ノ支拂ヲ要スル旨ヲ初メテ承知シ  
尚船作價額ノ評價ニ極メテ高額トシナラズ 檢疫船ニ個  
人ノ所有ナヤ又官有物ナヤヲ質問セシムカラス 爲<sup>カ</sup>「カ」<sup>カ</sup>ニ

(辛 號 用 紙)

ニ有之候 状況斯ノ如キハ 高 証據文書提出ノ要求モア  
リタル 依リ 在浦潮日本總領事館ノ翻譯証明アル地  
港務部ノ船舶所有証明並ニ保健部ノ委任状等ヲ提出シ  
署長自身モ 右書類ノ証據書類トシテ十分ナラシメ  
模倣ナシカ 警察本部ヨリノ電訓ナリトテ 船舶ニ在浦潮日本  
總領事館ニ引渡ス様致スルニ付 一應帰還セシ度旨ノ勸  
告ヲ受ケ 當惑セル趣ニ有之候

然レモ 模倣船ノ船舶ニ著ク破損シ 引込ニルル早 船長ノ見立ヲ  
以テセバ 五百円乃至八百円ノ價額ヲ有スニ 是キガレモ 拘不 財政  
極メテ窮乏ノ浦潮革命委員會ガ既ニ諸種ノ手續及 備船ノ  
為メ 船舶見積價額以上ニ經費ヲ要シ居ル狀況ニ 鑑メ 到底  
再引取船ヲ帰還スルノ不可能ナラ思ヒ 代表者モ 保管料及  
淺船料ヲ支拂ヒ 高浦潮日本總領事館ニ引渡ス事トシテ

在浦潮日本總領事館

如何ニテ誓約書ヲ登記スヘキ付 宛ニ浦潮マテノ運搬ヲ許サレ度  
旨 懇願セル趣ニ 署長ノ了解ヲ得ルヲ得 不 署長ヨリノ  
右部ニノ電報往復モ 然テ空ニテ 返ニ 帰還ヲ餘儀ナクセラレ  
タル 趣ニ有之候

右ニ關聯シ 当地官憲ノ要感情ニ 勿論ノ事ニ付 特ニ 文法員ノ  
上陸ヲ禁ムルニ 四時間ノ停船ヲ餘儀ナクセシメ 對シテ 甚シク  
要印象ヲ受ケルモノノ如ク 有之候  
右及出報告候 敬具

門類  
項目  
電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約

|     |  |
|-----|--|
| 件名  |  |
| 綴込名 |  |

馬尼刺波 二十二年一月二十日午前十一時  
外務省着令 二十日午前九時  
内務大臣 杉村總領事

第六種

提督引率に係る露國避難船十  
二隻中五隻一月二十日上海より呂宋島  
リンガエニ渡りハリナオニ到着し全船到  
着後米海軍護送ノ下ニ馬尼刺湾口  
Manuel's 検査所ニ廻航せしノ山嵐以  
糧食補給上出港ノ下ニ十九日

大正三年一月廿五日記録係接受

總陸海軍



機密  
受第0326號  
12.1.28

高松第六二五号  
雙歌了 第三課

大正十二年一月十七日

廣島府知事 阿部 尾彦  
大正十二年七月貳拾日

内務大臣 水野錬太郎殿  
外務大臣 内田 康哉殿  
各府知事 長官殿

露國遊雜民政濟寄附募集ノ件  
東京西大久野保二三六

希出者 志部

右者より本月七日管下神石郡菅村有木尋常小學校  
之宛別紙(内相閣下ノ添付)ノ印刷物ヲ以テ露國遊

要目付了

雜民ノ窮状ヲ傳、眞綿十枚以上ノ寄附方勸誘ニ来  
リ尚他ニキ該黨勸誘ニ来リ尚他ニ該黨勸誘ニ来  
ノ復様アルヲ以テ内查中ニカ接受者ニ於テ之ヲ賛同ノ  
意向無之候進而查視(遺)ニ於テ、希出社ノ内  
容、閣下御回報相煩度  
右々申(通)報候也

駐歐齋 第三課 左

機密第二七號

綴込名 印光 〇〇

大正十二年一月十七日

在哈爾濱

總領事山内四郎



機密 受第 37 號 12. 1. 24

亞細亞局

外務大臣伯爵内田康哉 殿

在朝鮮露國白黨避難民ノ處分方ニ関スル件

曩ニ浦塩ヲ朝鮮方面ニ避難シタル露國友過激派分子ノ保護方ニ関シテハ疾ク本省ニ於テ御考定ノコトニ有之故テ本官等ノ容喙ヲ要セザル義ニ有之候處露國

在哈爾濱日本帝國總領事館

政情ノ將來モ容易ニ目鼻付キ不申隨テ此等白黨人等ノ運命モ當分不明ニテ此儘長月風俗習慣ヲ異ニシ食料品其他万事ヲ異ニスル前記露國人ガ帝國官公衙ノ保護ヲ受ケサルマカラストセバ頗ル困ラシムル問題ト被察候然ル處一月十五日露人ロパーケン(元浦塩ニテ國際通信其他日本側ノ新聞事業ニ關係ヲ有シタルコトアリ)現今當地ニアリ近日本邦經由渡米モシトシマアル者)島田副領事ヲ來訪シ談偶々本問題ニ及ビロパーケンニ於テ極内密ノ考ヘナリトテ大要左記ノ通内諾有之候右ハ果シテ實行可能

外務大臣

機密  
第 53 號  
12. 1. 23

亞細亞局

獸齋 第課

大正十二年一月二十日

午前九時四十五分測天島  
午後三時三十分海軍司令官

海軍大臣

馬公要港警備司令部

一、昨十九日鷺嶽鼻ヲ出港セシ露艦四隻ノ内  
 「マクニット」「バイカル」ハ其後再ヒ豫定変更  
 「イリギン」大佐指揮ノ下ニ昨夜十時高雄ニ  
 入港セリ、木曾之ト同航高雄ニ在リ

二、他ニ隻ハ分離南西ニ去レリ

三、右露艦ト連絡アリト思ハル露國雜役船  
 「アラタ」「パリス」昨日午後高雄入港

ナリヤ元々問題ハ有之又、ロバーケンハ純然タル白黨ニ無  
之敢テボリシエウイキヲ嫌ヒ居ル次第ニモ無之加之同人ハ目  
下當地勞農代表ボージン宿舍ノ隣ニ居住シ居ル關係  
上或ハボージンノ意圖ヲ受テ居ル者ニアラヌヤト邪推セラル  
節ナキニモアラザル處同人ハ現今元山地方ニアル白黨避難民ト  
共ニ浦塩ヲ避難シ来リ且ツ親シク在朝鮮露國領事館ノ  
現状鮮人ノ對日感情等調査シタル上當地ニ来リタルモノニ有之  
候間其意見ハ多少トモ御参考ト相成ベクト被存候間  
右様御る录ノ上何等御参考迄ニ御査閱相成候様致  
度此段報告申進候敬具

在哈爾濱日本帝國總領事館

記

自分ハ親シク白黨ト共ニ浦塩ヲ元山ニ避難シ同地ニテ日  
本官憲ノ避難民ニ對スル保護状況、鮮人ノ對日感情露國  
領事館ノ現状等ヲ調査シ當地ニ来リタル者ハ露國政  
情ノ安定セザル今日右避難民ガ朝鮮ニ永ク日本官憲保護  
ノ下ニ居住スルコトハ日本ノ為メモ又露國人ノ為メモ種々ノ不  
便困難アルコトミシテ本件ハ早晚何トカ解決セシサルヘカウ  
カト思考ス

コレガ解決方法トシテ適切ナル案ハ何種々考究シ居タルガ結局  
左ノ方法ニ依ルノ外ナシト思考セラル右何等カノ形式ニ於テ日本

中央當局ニ傳ハル、様御利用相成度シ

適當ノ最近ノ機會ニ於テ松平局長ヨリ在東京アフリートフ  
ホツチヤード等ヲ呼出サシ貴下等ノ代表ト居ラシム露國政府ハ  
現今存在シ居ルニ然ルニ貴下等ハ依然露國ノ金ニヨリ俸給ヲ  
受ケ居住執務シ居ルハ其ノ意ヲ得サン所アリ須ク日本ヲ去ラ  
ヘキナリ若シ日本ヲ去ルヲ欲セカトモ同シク現今ノ露國政府ヲ承  
認セカニ在朝鮮白黨露國避難民保護ノ任、當ルヘキナリ  
右ニ要スル費用トシテ「アラ」ホ「」其他現在露國領事館ノ有  
キ官金ヲ支出スルニ云ト傳達セラルレバ如何ト思考ス

現今朝鮮、於テ露國領事館ノ如キハ年額豫算三十万  
在哈爾濱日本帝國總領事館

田餘ヲ有シ居レリ斯ノ如ク到ル處多額ノ金員ヲ今尚支出  
シ居ル次第ナカ右金員、寧ニ露國人避難民保護用ニ  
使用セシメテ可ナリ左スルハ國家ノ金ヲ有用ニ使用シ得ベキナリ  
自今ノ考ニテハ日本、現在ニ露國官金ハ當分避難民ヲ保  
護スルニ足ルマシト思考候斯クセバ一方現在ノ露國領事其他ノ  
存在ヲ失ハシメテ依テテ勞農側ノ感情ヲ良好ナラシメ得ベク  
他方右領事等ニ仕事ヲ與ヘ國家ノ金ヲ有益ニ使用セシメ  
得ベキナリ依テテ領事等ハ仕事ヲ得避難民等ハ日本側ノ  
世諾ニテ心地良ク日本領域内ニ残り得ベキナリ即チ日本ハ  
赤白双方ニ對シ良キ顔ヲ爲シ得ル次第ナリ日本政府ハ本件

ヲ考究スノ價値見レト思考ス云々 以上

在哈爾濱日本帝國總領事館

機密  
受第 14 號  
12.1.24

附屬書

機密第六號

大正十二年一月十一日

在上海

要目付了

總海事代理 田中 莊太

綴込名



外務大臣伯爵 内田 康哉 殿

亞細亞局

露國避難艦隊來航ニ關スル件

スタルク提督ノ率ユル露國艦隊力昨年末來當地吳淞沖合ニ避難シタル件ニ  
關シテハ電報及書類ヲ以テ隨時報告申進置候處尙爲念重複ヲ厭ハス概要取  
纏ノ別紙ノ通り及報告候條御査閱相成度此段申進候 敬具  
本信寫送付先 在支公使 兩京領事

露國避難艦隊來航ノ件

在上海日本總領事館

露國避難艦隊來航ノ件

十五隻ノ小艦二千六百人ノ避難民

支那官憲ハ上陸禁止シタルトモ過半ハ

上海ニ潜入セリ

三隻ヲ支那海軍ニ賣却シ殘部ハ行先不明

一、避難軍艦及避難民！！十二月七日第一着トシテバイカル號吳淞沖合ニ  
來航シ續テ三々五々相率ヒテ十四隻來航シタルカ其ノ艦名左ノ如シ

Batareya

Farvater

Ella Muromitz

Vziyvalot

在上海日本總領事館

ALX.  
PARIS.  
SINGAPORE.  
BATAVIA.  
PANORAMA.  
ULISS.  
MAGNIFIC.  
SONNE  
SERIALS.  
RESEARCH.  
SERIALS.

在上海日本總領事館

REEL No. 1-1307

0338



之等ノ軍艦ハ釜山ヨリ來航シタルモノト傳ヘラレスタルク提督以下乗組員及避難民ヲ合シ露人約千六百五十名外ニ使用支那人數十名ヲ搭載シタルカ航海中艦隊ヲ破損シ修繕ヲ要スルモノ數隻アルノミナラス糧食燃料既ニ盡キ彼等ノ大部分ハ殆ト無錢ニシテ疾病者モ少ナカラス其ノ窮狀慘憺タルモノアリ

二、支那官憲ノ態度――！――兩三年來當地ニ流レ込ミタル露國人ハ既ニ數千名ニ達シ其ノ大部分ハ貧民ニシテ衣食ニ窮シ市中ヲ徘徊スルモノアリ上海ノ治安ハ之カ爲動モスレハ害セラレントスル虞レアルヲ以テ租界當局ハ勿論支那官憲モ此ノ上多數ノ露國避難民カ入り込ムコトヲ默視スルヲ得ス淞滬護軍使ハ露國避難民ノ上陸ヲ禁止シ僅ニ各艦ヨリ數名宛毎日食料品其他必需品購入ノ爲上陸セントスルモノ及上海ニ在留スル露國人ノ保證アルモノ

在上海日本總領事館

ニ限り上陸ヲ許可シタリ然ルニ避難民ハ軍艦ニ近附キ來ル雜貨販賣ノ支那舟ヲ利用シ夜間密ニ吳淞ニ上陸シテ鐵道線路ニ沿ヒ上海ニ續々入り込ミ又中ニハ所持スル武器其他ヲ密賣セントスルモノアリ一面彼等ノ窮狀ハ日ヲ逐ヒテ甚タシクナリ治安維持ノ必要益感セララルルニ至リタルヲ以テ支那官憲ハ楚有、楚豫ノ兩艦ヲ派遣シテ全避難軍艦ノ出港ヲ強要シ十二月末迄ニ退出セサル場合ハ武装解除ヲ行フコト、ナレリ然ルニ避難軍艦ノ數隻ハ上海ニ入港シテ修繕中ノモノモアリ容易ニ退去ノ模様ナカリシカ本年一月十日ニ至リ三隻ヲ殘シテ全部出港シタルモ目的地ハ秘シテ判明セス

三、租界當局ノ態度――！――露艦來航當初支那官憲ハ不取敢避難民ノ上陸ヲ禁止シタレトモ何等積極的解決ノ方策ナク加之避難民ハ支那官憲取締振リノ不徹底ナルニ乘シテ續々上海ニ入り込ミタルヲ以テ當地領事團ハ避難民ノ

在上海日本總領事館

生命財産ニ對スル露國政府ノ保障ノ下ニ彼等ヲ歸國セシムルカ然ラサレハ  
彼等ノ上陸ヲ絶對ニ禁止シ再ヒ支那領海内ニ入ラシメサル處置ヲ取り廣  
キ意向ヲ有シ右ニ關スル北京外交團ノ訓令ヲ仰キタル處外交團ハ此ノ提案  
ニ贊成セス本件ハ其ノ性質上支那政府ヲシテ處理セシムル方針ナル旨回訓  
シ來レリ

右ノ事情ニ依リ當地領事團ハ避難民ノ上陸禁止ニ關シテハ支那官憲ノ取締  
ニ一任シ居タルカ上海租界ニ潛入スル避難民中ニハ親戚知己モ無ク忽チ衣  
食ニ窮シテ乞食ノ群ニ投スルモノアリ又租界工部局ハ一般市民ノ武器携帯  
ヲ禁止シ居ルニモ拘ハラズ避難民中ニハ其ノ所有ニ係ル拳銃爆彈等ヲ持チ  
込ミタルモノアルヲ以テ租界警察ハ彼等ノ取締ヲ嚴重ニシ家宅搜索ノ結果  
武器類ハ沒收シテ其ノ所持者ヲ會審衙門ニ引渡シタル事實アリ又中ニハ取

在上海日本總領事館

調ノ結果事實護身用トシテ携帯シ來リ決シテ他ニ密賣ノ意思ナキコト明カ  
ナルモノハ軍艦ニ持チ歸リテ嚴命セラレタリ

領事團ニ於テハ之等避難民ノ今後ノ取締方ニ關シ疑議ノ結果真更ニ支那官  
憲ノ注意ヲ喚起シ避難民中衣食ニ窮シ又ハ租界ノ治安ヲ害スル虞レアルモ  
ノハ租界ヨリ放逐シ彼等ヲ上陸セシムルニ至リタル支那官憲ニ之レカ救濟  
ノ責任ヲ負ハサントスルニ決定シ其ノ旨近ク首席領事ヨリ當地交渉員ニ照  
會スル筈ナリ

四、孤兒救濟ノ件！！當地ニ上陸シタル避難民ハ約一千名ニ達スル見込  
ナルカ其ノ内三百餘名ノ孤兒（十才以上十七才位迄ノ學生）及教師等ハ公  
然上陸陸許サレタリ孤兒救濟ニ關シテハ義ニ當地米國赤十字社ヨリ米本國  
ニ送致シテ救濟シタキ意向ヲ有シ本國ニ照會シタルカ未タ成否確定セス差

在上海日本總領事館

當リ在留露國人間ニ於テ佛租界ニ一時借家シテ收容シ居レルカ衣食ノ支給  
不十分ニシテ目下外文人間ニ援助ヲ求メ居レリ  
尙軍艦ト共ニ退去シタル避難民ニ對シテハ當地外文人經營ノ各種慈善團體  
及有志者ニ於テ義捐金ヲ募集シ石炭、麥粉、芋類ヲ多量ニ購入シテ贈與シ  
タリ

五、軍艦賣却ノ件！！軍艦吳淞ニ入港當時スタルク提督ハ軍艦及附屬武器  
ヲ賣却セントノ意向ヲ有スルカ如ク傳ヘラレタル處在北京露國政府代表一  
ヨツフエ一氏ハ當地外字新聞ニ廣告シテ露國政府ノ所有ニ係ル本件軍艦及  
武器ト何人ノ手ニ歸スルトモ露國政府ノ承認ナキ限り無効ナル旨聲明シタ  
リ  
然ルニ其後該軍艦全部及附屬武器ハ乘組員ト共ニ百五拾萬兩ニテ孫文ヨリ

在上海日本總領事館

讓受方交渉ヲ試ミタリト傳ヘラレシカ實現スルニ至ラス遂ニ前記三隻ヲ他  
ノ軍艦ノ修繕費ヲ得ル爲南京ニ在ル支那海軍ニ賣却シタル由ナリ之レカ艦  
名ハ當地露西亞事務局ニ就キ取調タル處ニ據レハ Stray, Bezuyo, Strelok  
ノ三隻ナル趣キナルカ更ニ他方面ノ報道ニ據レハ賣却セラレタルハ Astaka  
PARISS ノ二隻ナリトモ傳ヘラル、モ Astaka 九艦名ハ前記艦名表ニ存在  
セサルヲ以テ恐ラク何等カノ誤リナルヘシ  
當地交渉使者ニ就キ確メタル處ニ據レハ各軍艦カ所有シタル武器ハ合計左  
ノ通りニシテ之等ノ一部ハ前記三隻ノ軍艦ト共ニ南京海軍ニ賣却セラレ  
シ出ナルモ其ノ數不明ナリ

大砲

三十  
一門

小銃

三百五十挺

在上海日本總領事館

然ルニ上海タイムスノ報道スル所ニ據レハ南京ノ支那海軍力軍艦ト共ニ買受ケタル兵器左ノ如シ

- 拳銃 五十挺
- 爆彈 三百餘個
- 六吋砲 一門
- 同彈丸 一〇四發
- 四、七吋砲 二門
- 同彈丸 一、〇〇〇發
- 七五ミリメートル砲 二門
- 同彈丸 五〇〇發
- 四七ミリメートル砲 二門

在上海日本總領事館

- 同彈丸 一二七發
- 四〇ミリメートル砲 一〇門
- 同彈丸 二、三〇〇發
- 三七ミリメートル砲 一門
- 同彈丸 五二〇發
- 三吋砲 一門
- 同彈丸 一、〇〇〇發
- 野砲 一門
- 同彈丸 一二五發
- 機關銃 一二發
- 彈藥筒 四二個

在上海日本總領事館

軍用電話機（電池附）

二六組

新式小銃

數千挺

舊式露國銃

一五九挺

其他彈藥多量

右軍艦及兵器ヲ南京海軍ノ買受ケニ關シ當地護軍使及交渉員ハ豫メ何等關係セサリシ趣ニテ本件ニ關シ將來<sup>假令</sup>問題發生スルコトアルトモ其ノ責ヲ負ハサル旨既ニ北京政府ヘ申達シタル由ナリ

（以上）

在上海日本總領事館

外務大臣

機密  
受第 56 號  
12. 1. 24

駐歐齋 第二課 友

大正十二年一月二十二日午後七時三十分測天島後  
十時三十分海軍到着

海軍大臣

綴込名 印光 山 龍

亞細亞局

木曾艦長ヨリノ報告ニ依リ、高雄在泊中ノ  
露艦ハ目下、炭水補給中ニテ、内一隻ハ主機  
械ニ故障アリ修理ニテ、日ヲ要スル見込出發ハ  
二十五日頃ナラン

REEL No. 1-1307

0344

機密  
受第 59 號  
12.1.24

亞細亞局

機密

駐歐齋

第二課

海軍

官房機密第 11 號

大正十二年一月二十四日

海軍次官

井出謙治

外務次官

田中

都

吉

殿

元山方面出動驅逐艦引揚ノ件

元山在泊露艦監視ノ爲從來驅逐艦ヲ同方面ニ出動セシメ居リ候處今  
般左記ノ通鋼海要港部司令官宛引揚ニ關シ依命電報致シ候間御承知

相成度

右通牒ス

左記

元山在泊露艦ノ狀況ニ異變ナキニ於テハ出動驅逐艦ヲ便宜引揚ケン

海軍

メラレ差支ナシ右依命追テ今後ノ狀況ニ依リテハ更ニ驅逐艦ヲ派遣  
セシメラルル必要アルヘキニ付豫メ含ミ置カレ度

終

善  
受第 173  
12.1.24

陸海軍 第二課  
公信 第五四號

大正十二年一月廿五日

在上海

總領事代理 田中 龍太郎

外務大臣 伯島 内田 康 茂 殿

露國避難艦隊ニ關スル件

首領艦隊ノ一部賣却説並出發ニ關シ當地發  
行ノ過激派機關新聞 *The New Shanghai Life*  
ニ左記翻譯ノ通論説並記事掲載致居候ニ付何  
等御参考迄及報告候

記

敬具

奪略品ノ賣却ニ就テ (一月曾附)

此ノ數日來スタルク糧督ノ將校テ居住ノ目的ヲ以テ上  
海ニ來ル者ガ歎クナシ 同時ニ艦船カラ持ッテ來タ  
眼鏡 拳銃 又ハ医療外科器械等ガ市中ニ於テ派  
山賣物ニ出テ居ル 是等ノ品ハ浦塩カラ持ッテ來タ  
モノデ之ヲ避難民ガ賣ラウトシテ居ルトハ衆人ノ等  
シク認ムル所デアル

現ニ一昨日ハバタレヤ箱ノ海軍用品ガ賣却セラレタトノ  
確報ガ有ルガ更ニ艦隊ニ搭載セル六個ノ大砲ト共ニ  
武器ヲ残ラズ六萬弗ノ價格ヲ賣却シタトノ風説ガ  
專ラ傳ヘラレテ居ル

吾等ハ右ノ風説ガ全ク虚偽ナルコトヲ信認ルコトカ出來  
ヌ 由職ニ十日記者ガ露國軍務局長カロワセ氏ニ面



會シテ時今氏ハ艦船ニ關スル商取引ハ一切承認セシ  
ト共ニ艦隊ニ關スル事件ハ一切事務當局ニ登記ヲ許サ  
ナイト語ッタ

クロツヤ氏ハ支那官憲カラ任命セラレタ上海ニ於テ露  
國ノ利益ヲ保護スベキ地位ニ在ル人アルカ以テ右ノ誤解  
ヲ信ヤナケレバナラヌケレトモ前記ノ風説ノ目下上海至  
ル所ニ流布セラレテ居ル事務當局テハ今日迄何等  
真偽ヲ確ノヤウトセナイ

若シ右ノ風説が事實相違ナキトガ確メラレタ場合ニ  
事務當局ハ露國財産ヲ如何ニシテ擁護セントスルカハ關  
却サレドモ出来ヌ向懸テアル

ヤメシユコ

クロツヤ氏ニ問フ (一月十日附)

クロツヤ氏ヨリ貴下ハ余カ白臘三十日新聞記者ト  
シテ面會ヤル時スタルク提督ノ艦隊ニ關スル取引ハ  
一切貴事務當局ニ於テ承認セラルト語ラレタ

然レ本日(一月九日) *The New Shanghai Daily* 新聞社  
編輯部ニ於テ受取ツタ最モ信頼スルキ情報ニヨレバスタ  
ル艦隊ノ中 *Agata, Paris, Resny, Stelak* ノ四隻ハ  
支那側ニ賣却セラレト云フ

余ハ新聞記者トシテ又露國市民トシテ右取引ヲ中止セ  
シタル為メ貴事務當局ハ如何ナル手段ヲ採ラントスルカ  
聞カントスルモノデアル。更ニ問フ!! 右取引が完了セラレ  
タトモ如何ナル原因ガ右ノ奪略セル露國固有財産ノ  
賣却ヲ防カントシテ努力ヲ妨ケタカフ 聞カネハナク

マノシユコ

西伯利艦隊ニ就テ (一月四日附)

スタルク提督ノ引率ニシテ西伯利艦隊ハ程ナク上海ヲ出  
發スヘシト傳ヘラル行先地ハ依然トシテ何人モ報告  
シレバカ余非軍ハ大膽ナルスタルク提督ニ別辭ヲ呈ス  
ルト共ニ降服ヲ勸告セラレタルニ係ラス依然トシテ露  
國並露西亞人ノ敵ニ忠実志將ヲシテ思ハク憐ナラハ  
得ズ

今ヤ上海ヲ出發シントス艦隊員ノ決心ニ對シ何人カ  
尊敵ノ人忍ヲ拂フコトカ出来ヤウカ  
左リ乍ラスタルク提督ノ健全ヲ祈ルニ西伯利艦隊  
ノ健全ヲ祈ルニ艦隊露國並露西亞國者ノ健全ナレハ

イザ去ラバ

本信ヲ送付先

在支公使 朝鮮總督

本内務事務官ヲ

遊信局長 遊復總兵 兵庫副局長 岸元



梅機密第四號

大正十二年一月二十五日於元山

梅驅逐艦長 山下深志

海軍次官 井出謙治殿

元山情報 二

一、露國避難民武器ニ關スル件

白軍避難民ノ有スル武器ハ昨年十二月初旬元山守備隊長、元山警察署長、憲兵分隊長協議ノ上各々其ノ關係長官（守備隊長ハ第八師長、警察署長ハ警務局長、憲兵分隊長ハ憲兵分隊司令官）ノ指令ヲ仰キ結局「白軍並ニ其ノ關係者ノ武器領置ハ警察側ノ處分ニ委シ憲兵ハ相當之ニ應援スルコト」ニ決定セラレ警察側ハ「グ

白軍避難民

(已號用紙)

外務省

REEL No. 1-1307

0350

(已號用紙)

梅驅逐艦長 山下深志

一月二十五日於元山

出謙治殿

情報 二

武器ニ關スル件

有スル武器ハ昨年十二月初旬元山守備隊長、元山警  
分隊長協議ノ上各々其ノ關係長官(守備隊長ハ第十  
署長ハ警務局長、憲兵分隊長ハ憲兵分隊司令官)ノ  
局「白軍並ニ其ノ關係者ノ武器領置ハ警察側ノ處分  
相當之ニ應援スルコト」ニ決定セラレ警察側ハ「グ

外務省

紙 箋 符

大正十一年一月二十九日  
海軍省軍務局  
梅驅逐艦長 山下深志  
白軍並ニ其ノ關係者ノ武器領置ハ警察側ノ處分  
相當之ニ應援スルコトニ決定セラレ警察側ハ「グ

REEL No. 1-1307

0351

レボフ」將軍ニ交渉シ全部之ヲ「モングカイ」ニ集メテ格納封印  
セシメ「グレボフ」將軍ハ責任ヲ以テ自己ノ部下ヲシテ之ヲ監視  
セシムルコトナシ其ノ後警察署ニテハ時々陸上避難所等ヲ搜索シ  
發見毎ニ軍刀、軍銃、拳銃及彈藥等ハ總テ之ヲ封印シテ「グレボ  
フ」將軍ニ送リ一層監視ヲ嚴重ニスヘク警告ヲ與ヘ爆彈ハ總テ警  
官立合ノ上海中ニ投棄セシメツツアリシカ其ノ後一月十日頃一露  
人ノ拳銃自殺者アリ今又京城鐘路爆彈事件等ヲ生シ或ハ元山避難  
民中ニ尙之等危険物ノ賣買ヲ爲スニ疑ラサルヤノ疑アルヨリ元山  
警察署ニテハ別紙元警高第二二〇號ノ如ク爆彈犯人搜查銃器彈藥  
等ノ檢索ヲ行ヘリ

(已號用紙)

外務省

ニ、赤派嫌疑者ノ件

露國避難民中ニアル赤派嫌疑者ハ既報豫定ノ如ク二十一日元山港  
ノ清津丸ニテ三十二名浦鹽ニ向ヘリ内二十六名ハ自費ヲ以テ他ノ  
六名ハ所持金ナカリシヲ以テ赤十字社元山支部ヨリ一時立替ヘ避  
難民最高幹部「グレボフ」中將監視ノ上乘船セシメ可成我官憲ノ  
眞意ヲ誤解セシメサルニ努メ還元セシメタリ  
氏名左ノ如シ

|        |                          |
|--------|--------------------------|
| 露國一等水兵 | ピョートル、アレキサンダー、ロシコフ、當四十二年 |
| 二等水兵   | ニコライ、タランツエツキ、十八年         |
| 露國モンダカ | コウスマ、エコラエフ、三十七年          |
| イ船長    | イワン、セメニユーク、四十四年          |
| 一等機關長  |                          |

外務省

(已號用紙)

(已読用紙)

|                  |                |      |
|------------------|----------------|------|
| 露國モンクカ<br>イ二等機関長 | イワン、ロシコフ       | 四十六年 |
| 露人船員             | アントン、コソレツツ     | 四十六年 |
| 〃                | ミハイル、ロウキアンチエンコ | 五十六年 |
| 〃                | ビクトル、パノマレツツ    | 十七年  |
| 〃                | マウスタファ、ヴォミー    | 三十六年 |
| 〃                | セルギー、ベスコツフ     | 四十五年 |
| 〃                | イワンサハルチヨウク     | 三十年  |
| 〃                | ステパン、コステニツク    | 三十二年 |
| 露船ザシトニ<br>ツク船長   | ニコラス、ヴァスケヴキツチ  | 四十四年 |
| エルドラド船長          | アンドレイ、アルセンテイエフ | 三十三年 |

外務省

(已読用紙)

|       |               |      |
|-------|---------------|------|
| 同人妻   | ルドミラ、アルセンテイエフ | 二十一年 |
| 同船事務長 | ポリカルプ、コスロフ    | 三十四年 |
| 同人妻   | リディア、コスロフ     | 二十六年 |
| 長女    | ニナ、コフトロフ      | 九年   |
| 船員    | エイソウン、アイドワルド  | 二十五年 |
| 〃     | バーヴェル、グラベジエフ  | 三十二年 |
| 〃     | テイホン、ヤロヴオイ    | 四十三年 |
| 〃     | バジル、スコヴヘン     | 二十年  |
| 〃     | ピョートル、サフチエンコ  | 四十三年 |
| 〃     | ミロウアン、ワフエエフ   | 三十五年 |
| 露國人技師 | ワジミ、カリワストロフ   | 三十九年 |

外務省

(已 號 用 紙)

露 國 人 船 員 マルク、バルジ

、五十八年

以上二十六名ハ露國義勇艦隊浦鹽支店所屬者ニシテ何レモ自費ヲ

以テ歸還シタルモノナリ

露 國

陸軍二等大尉 セルキー、サルサトスキ

、二十五年

看 護 婦

アンナ、ステバノブナ、ニコブアス

、三十一年

露 國 人 無 職

アナトリ、ガロウキイン

、二十五年

露 國 陸 軍 中 尉

アレキセイ、ニコライウイチ、  
ボルマロツク

、三十四年

露 國 陸 軍 文 官

セメヨングオルギウキツチ、  
デミン、二十八年

露 國 人 勞 働

パーフェル、ユゼフウキツチ、  
ウエルチク、十八年

以上六名ハ歸還旅費ナキヲ以テ當地我赤十字社元山支部ニ於テ給  
與シタルモノナリ

外 務 省

(已 號 用 紙)

男 二十八名

女 四名

計 三十二名

外 務 省



三、露國避難民退鮮希望者ニ關スル件  
 發ニ報告ノ露國避難民中ノ親米派約百名ノ退鮮希望者ハ其ノ後避  
 難民最高委員會幹部ヨリ改悛ノ狀顯著ナルニ依リ彼等ノ陳謝ヲ容  
 レ將來再ヒ斯ルコトナキ確信ヲ得タルニ依リ退鮮手續取止メラレ  
 タキ旨申出テ目下其ノ儘トナリ居レリ

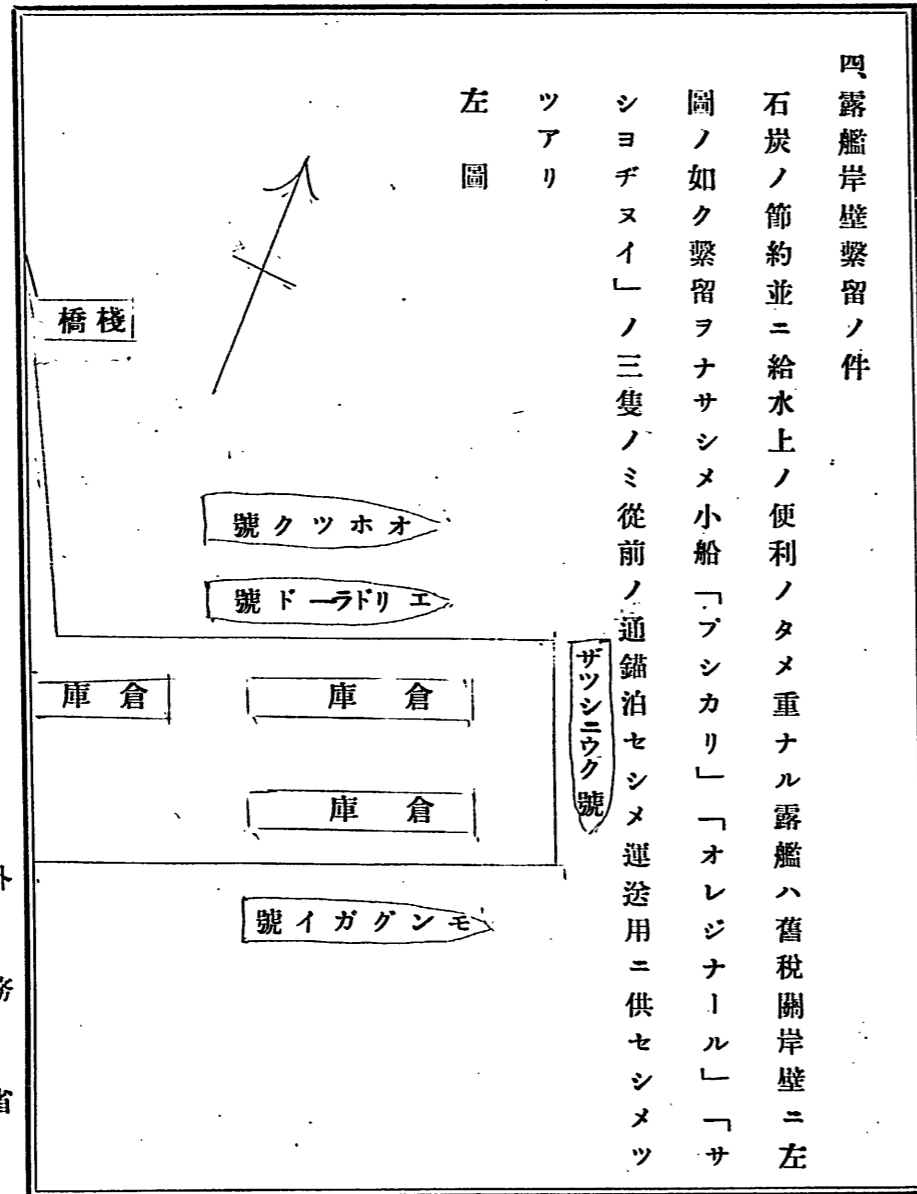
(已號用紙)

外務省

四、露艦岸壁繫留ノ件

石炭ノ節約並ニ給水上ノ便利ノタメ重ナル露艦ハ舊稅關岸壁ニ左  
 圖ノ如ク繫留ヲナサシメ小船「ブシカリ」「オレジナール」「サ  
 シヨヂヌイ」ノ三隻ノミ從前ノ通鋪泊セシメ運送用ニ供セシメツ  
 ツアリ

左圖



外務省

(已號用紙)

(已 號用紙)

五露國避難民最高委員會事務管理長「イワノフグーノフ」中將ヨリ  
元山警察署長ヘノ情報

(1) 各地ニ散在スル露國白軍殘黨避難民中將來再舉ニ際シ戦闘ニ出場  
シ得ル人員左ノ如シ

元山 三千名 天津 百名 上海 五百名

青嶋 百名 奉天 六千名 子チハル 五百名

ハルピン 五千名 吉林 二千名 伊アクスク 一万名

計 三万一千四百名

但シ客年當地經由上海方面ニ向ヒタル「スタルク」提督配下一行  
一千三百名ヲ除ク

(2) 白軍殘黨總員約十一万名

外 務 省

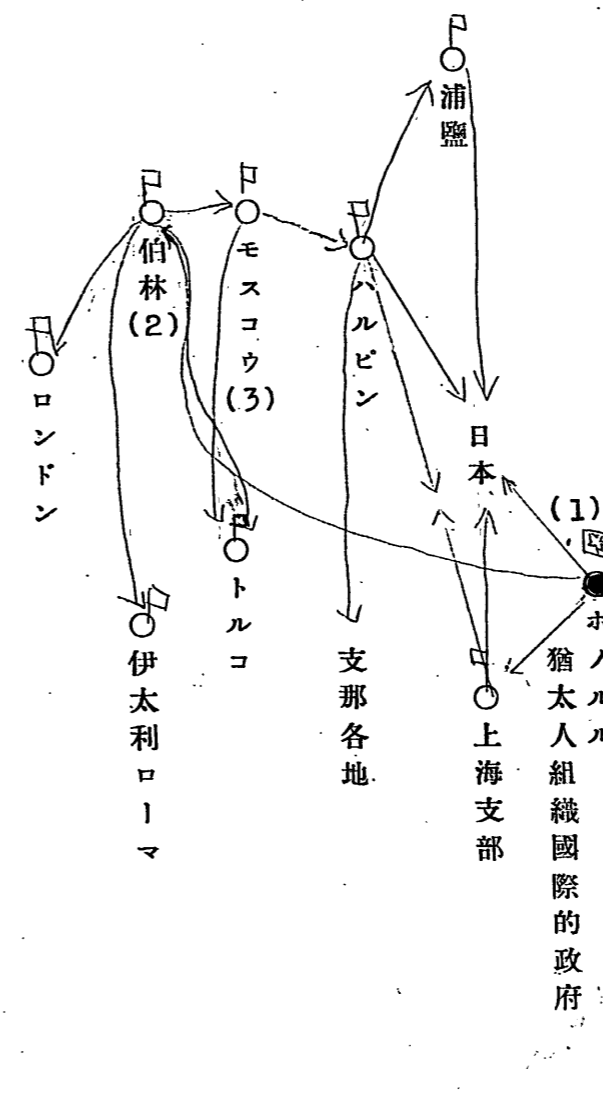
(已 號用紙)

(3) 現ニ米領「ハワイ」島「ホノルル」ニハ猶太人ノ虛無黨多數居住  
シ居リテ之レ等猶太人ハ「インターナショナルガブアーメント」  
(國際的政府)ナルモノヲ今ヨリ約六年前即チ千九百十八年(大  
正七年)三月頃「ホノルル」ニ於組織シ其ノ年ヨリ五ヶ年計畫ニ  
シテ我日本帝國主義ヲ崩壊シ共產主義ニ赤化セント企圖シタルモ  
其ノ意ヲ果ササリシヲ以テ本年ヨリ更ニ五ヶ年經續行事トシテ本  
邦ヲ始メトシ極東一帯ヲ共產主義化シ帝國主義ヲ破壊シ更ニ歐洲  
ニ此ノ魔ノ手ヲ擴ムヘント云フ然ルニ之ヲ感知シ居ル米國ハ猶太  
人ノ世界ヲ共產主義化セントシツツアル陰謀國ニ對シ默認シツツ  
アルハ畢竟日本帝國ノ崩壊ヲ内心期待シ居ルニアラサルカ此ノ手  
段ニ依リ極東ヲ脅威シ赤化運動ヲ決行シ世界ノ覇ヲ權握セムトス

外 務 省

(已號用紙)

ルニ非サルカ何レニシテモ米國ハ猶太民族ヲ利用シ極東ヲ滅亡セムトシツツアルハ争ハレサル事實タルヘシ因ニ在「ハワイ」島「ホノルル」猶太人組織ニ依ル共產黨陰謀國ノ連絡機關左ノ如シ



外務省

(已號用紙)

在東京米人「フライシヤ」ヲ社長トスル英字新聞「ジャパン、アドヴァー、タイサー」ハ在「ホノルル」猶太人虚無黨陰謀團ト密接ナル關係ヲ有シ恒ニ排日的記事ヲ掲載シツツアリト云フ

在「ロンドン」共產黨ハ凡テ愛蘭人ノ陰謀團ナリト云フ伊太利ハ殆ント全般ニ亘リ共產主義侵潤セリト云フ

在露都「モスコウ」露國社會聯邦勞農共和國中央政府ハ伯林共產黨ノ指揮ヲ受ケ伯林共產黨ハ本「ホノルル」國際的政府(猶太人組織共產黨陰謀團)ノ指揮ヲ受ケツツアリテ實際的ノ共產主義宣傳ハ米國「ハワイ」島「ホノルル」次ハ伯林ニシテ「モスコウ」

ハ第三宣傳機關ナレハ一般世界ニ傳ヘラレツツアル「レイニントロツキー」等ハ決シテ偉大ナル勢力アルモノニアラス寧ロ宣傳總

外務省

本部「ホノルル」ニ注意スル要アリ<sup>横</sup>擴濱ノ如キハ最モ危険地帯タルヘシト云フ

(已読用紙)

外務省

六「オコーツク」修理ノ件

山之内鐵工所ニ支拂フヘキ千圓ノ手附金ナキ故ニ鐵工所側ニテモ未タ修理ニ着手セス思フニ修理費ノ調達ハ困難タルヘク「マンジユール」賣却金モ亦「スタルク」提督ヨリノ送金モ目下ノ處望ナキ模様ナリ

(已読用紙)

海軍次官

報告先

軍令部次長

鎮要司令官

司令

外務省

門類  
項目  
號

電信課長

小川

大臣

次官

志

亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
人事  
會計  
文書  
平和條約

件名  
綴込名

1107 浦塩菱 大正十二年一月 二十七日  
本有者 二十七日  
内田外務大臣 杉村総領事

要目付

第三六號

貴電第一九號 (元山遊報寄入返還)

大正十二年 二月 廿一日 記録係接受

ニテテガバニ通知シ置キ其處一行ハ二十五日  
夕向地着民整メノ取調ヲ受ケ見後上陸  
シ許サレタリ。

Vertical stamps and markings on the right edge of the document.

駐歐齋 第課 五  
綴牙一〇三五號

機密  
受簿0370 聯  
12.1.26

亞細亞局

大正十二年一月廿四日  
楊木嶺知事 山崎春樹

綴込名

大正十二年七月貳拾日 記録係 藤田

内務大臣 水野錬太郎殿  
外務大臣 青木宣親内田康哉殿  
各府縣知事 長官殿

四回

露島避難民傷病者救護  
懇同金募集之圖ニ付

前題ノ件ニ關シ本年十二月二日日本赤十字社  
長ヲ以テ親友部長宛朝鮮ニ於テ露島避難民

民救護ニ關シ懇同金募集ノ事ニ賛成ニ上相  
當出配慮ヲ乞フテ、意味、書状ヲ以テ勸誘シ、兼  
自レ封シ友部ニ於テ各郡市長ヲ經テ各所村長  
ニ通牒シ、第一回募集日、客月二十七日終リ、金貳  
万零陸拾九拾五圓、募集、同日友部ニ送付  
シ、本月二十日、第二回募集、トシテ、筆式、提出、係、務、務  
部、友、莫、大、小、楨、衣、五、枚、ヲ、募、集、シ、友、部、ニ、送、付、セ  
リ、乃、考、考、  
右、力、申、通、仰、候、也

全



大 次 官 臣  
 亞 細 亞  
 歐 米 商  
 通 商 條 約  
 情 報 事 務  
 人 事 計 劃  
 會 社 文 書  
 平 和 條 約

第 六 號

電信課長

電 信 案

平 文 發 電 大 正 十 一 年 一 月 三 九 日 午 後 五 時 廿 分 送 電 番 號 六 三 五 奉 天 經 山 長 春 經 山

主 管 歐 米 局 長

任 主

第 一 課 五

(起 草 大 正 十 一 年 一 月 三 九 日)

件 名

在 浦 汐 韓 人 朝 鮮 歸 還 一 件

名 込 綴

受 信 人 名

朝 鮮 總 督 府 有 吉 政 務 總 監

發 信 人 名

田 中 次 官

第 六 號

貧 困 韓 人 十 名 ( 全 部 旅 費 貸 與 者 清

津 一 元 山 九 ) 一 月 二 十 六 日 清 津 丸 行

浦 汐 行 出 發 セル 旨 松 村 總 領 事 行

電 報 了 了 行

電 信 案

外 務 省

( 丙 號 用 紙 )



門類

電信課長

大臣

次官

五

暗

|     |  |
|-----|--|
| 件名  |  |
| 綴込名 |  |

野尾刺殺  
 幸有者 大正三年一月二十九日 四三五  
 小四九

内田外務大臣

杉村修侯事

大正三年正月廿一日 記録係受

亞細亞  
 歐米 五  
 通商  
 條約  
 情報  
 人事  
 會計  
 文書  
 平和條約

弟八佛  
 (往電中六号) 当地砲泊中ノ米國駆逐艦三隻  
 (四隻トモ云フ) sailed order 一月二十九日去港ノ念在  
 アリ右ハ吾國艦艇船中一隻一月中旬澎湖島附近  
 航海中没没セハ方三二日所在甚小未因偵事  
 係指表未免了ソルカソ口石近海搜索ニ向テ  
 ナリト云フ 海軍ニモ移降置キテ情ヲ  
 考査難 船七隻ハ既ニ *manivels* 一列著情

總陸海軍